

生活科学習指導略案

平成26年 6月6日(金) 2校時
2年3組 28名 指導者 福元 浩子

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 付箋紙を使って思考を可視化し、気付きを諸感覚ごとに分類する活動は、思考力・判断力・表現力を育成する手立てとして有効であったか。
- 記述する子どもの姿(「記述」する名人)や説明する子どもの姿(「説明」する名人)の掲示資料を活用し、表現する学習活動を充実させることは、「学び合い」の中で、自分の思いや考えを伝え、学びを深める手立てとして有効であったか。

1 単元 おいしいやさいになあれ

2 指導計画(総時数 11 時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
であう みつける	1 育てる野菜を決め、育てる目的をカードに記入する。 2 野菜を買いに行き、育てる野菜の苗を植える。 【関：育てたい野菜を決め、野菜栽培に興味・関心をもって、大切に育てようとしている。】	4
かかわる	3 野菜の生長の様子を観察し、必要な世話をする。 【思：野菜の特徴や育つ場所、変化や生長について考え、世話の仕方を工夫したり、生長の様子を自分なりに表現したりしている。】	4 (本時)
つたえあう つなげる	4 自分で育てた野菜を収穫し、栽培活動を振り返る。 【気：野菜は、生命をもっていることや野菜を育てた喜び、自分の成長に気付いている。】	3

3 本時(6/11)

(1) 目標

つるや葉、花の特徴などを観察したり、気付いたことを情報交換したりすることを通して、野菜の特徴や変化に気付くようにする。

(2) 評価規準と評価の視点

野菜の特徴や変化の様子を諸感覚を使って観察し、気付いたことを伝えようとしている。

《評価の視点》

- ミニトマトは、小さくて黄色い花が咲くんだな。
- 野菜によって葉っぱの形や大きさが違うんだな。
- お世話を頑張ったから野菜が大きくなったんだな。

(3) 指導に当たって

「であう・みつける」活動では、野菜クイズをすることで、野菜の特徴に着目できるようにする。また、これまでの子どもの世話の様子を称賛し、野菜が順調に成長していることに気付かせたり、育ててきてよかったなという思いを高めたりすると同時に、自分の育てている野菜について、まだ知らないことがあることに気付くようにする。

「かかわる」活動では、まず、虫眼鏡を使ってじっくり観察したり、触ったり、匂いを嗅いだりする活動を行い、諸感覚から生まれた気付きを付箋紙に書くようにする。次に、書いた付箋紙を、諸感覚に分類した「見える図」(分類図)に貼り、小集団での交流を行うようにする。また、記述する子どもの姿(「記述」する名人)や説明する子どもの姿(「説明」する名人)の掲示資料を活用し、1人1人が自分の考えに自信を持ってしっかりと伝えることができるようにする。

「つたえあう・つなげる」活動では、「見える図」(分類図)を振り返り、気付いたことを発表したり称賛したり価値付けたりするとともに、これからの栽培活動への意欲付けや野菜への愛着を高めていくようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子どもの意識 指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動と教師の手立て・評価
であう・みつける	7	1 野菜クイズをする。 ・トマトだよ。水を毎日あげているから分かるよ。 ・葉が細いよ。何だろう。ピーマンかな。 ・ぼくの育てているナスではないな。 ・知らないことが多いな。もっと詳しく調べたいな。 ・どんな匂いががするのかな。トマトの実と同じかな。 2 本時のめあてをつかむ。 やさいかわったところを観察して、やさいの観察名人になろう。 拡大した葉っぱや花の写真を当てるクイズをすることで、自分の育てている野菜について、知らないことがあることに気付き、もっと詳しく観察したいという興味・関心を高めるようにする。また、諸感覚カードを提示し、視点を明確にして観察できるようにする。
かかわる	23	3 自分の野菜の特徴や変化を調べ、付箋紙に書き、ワークシートに分類する。 ・ミニトマトは小さくて黄色い花だよ。 ・きゅうりに、2つの違う花がさいているよ。虫眼鏡でよく見てみよう。 ・茎をよく見ると、ざらざらしているね。毛があるからだね。あさがおと同じだね。 ・花をさわると、粉がついたよ。 ・トマトの葉っぱはトマトと同じにおいがしたよ。 4 グループで気付いたことを紹介しながら、付箋紙の分類をし、まとめる。 ・まず、虫眼鏡で詳しく観察したら、毛が生えていることに気が付きました。 ・次に、花を見ると、粉が付いていることに気が付きました。 ・最後に匂いを嗅ぐとトマトと同じにおいがしました。 ・私も〇〇さんと同じことに気が付きました。さわったら、ちくちくしていました。 5 気付いたことを伝え合う。 ・花の大きさや触った感じ、色は野菜によって違うんだな。 ・毛が生えている野菜が多いな。朝顔と同じだな。 ・匂いを嗅いだり、触ったりすると、たくさんのことに気が付くことができるな。 6 本時の学習を振り返る。 ・今日は、たくさんのことを調べて、野菜名人になれたよ。調べるっておもしろいな。 ・収穫が楽しみな。 ・これから、どんなふうに大きくなるかな。 ・これからもお世話を頑張るぞ。 ※ 野菜の特徴や変化の様子を諸感覚を使って観察し、気付いたことを伝えようとしている。 〇 たくさんの気付きを見つけた子どもには、積極的に発言するように言葉掛けをする。 〇 気付きがあまり見られない子どもには、「記述する」名人カードを提示し、「何がどうなったか」主述を整えて書くことができるように声をかける。また、友だちの気付きを聞くことを通して、気付きを広げることができるようにする。 諸感覚を使って、多くのことに気付くことができたことを称賛し、これからもお世話をがんばるぞという意欲付けや野菜への愛着を高める。
つたえあう・つなげる	15	

第2学年 「おいしい野菜になあれ」

鹿児島市立田上小学校 教諭 福元浩子

1 はじめに

生活科は、具体的な活動や体験をするとともに、そこで生まれる気付きを大切にしている教科です。その気付きが質的に高まることによって、活動や体験が更に充実したものへと変わっていき、実際の生活における資質や能力及び態度が確かな力として身に付いていきます。本実践では、子どもの思いや願いをもとに、気付きの質を高めるような学習指導の在り方について考えてみました。

2 実践

(1) 目標

自分の野菜を大切に育てることを通して、野菜の変化や成長の様子に気付き、野菜への親しみをもち、それらは生命をもっていることや世話を頑張った自分のよさに気付くようにする。

(2) 単元の評価基準

- 育てたい野菜を決め、野菜栽培に興味・関心をもって、大切に育てようとしている。

【生活への関心・意欲・態度】

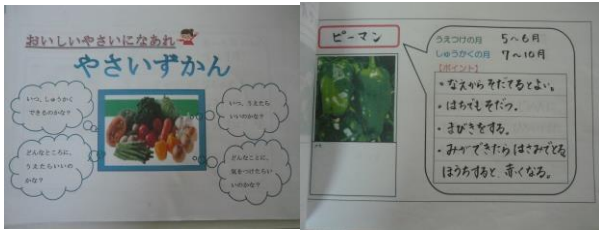
- 野菜の育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫したり、成長の様子を自分なりに表現したりしている。

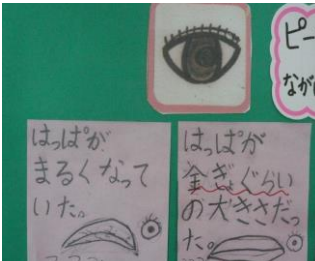
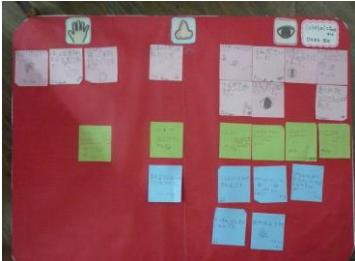
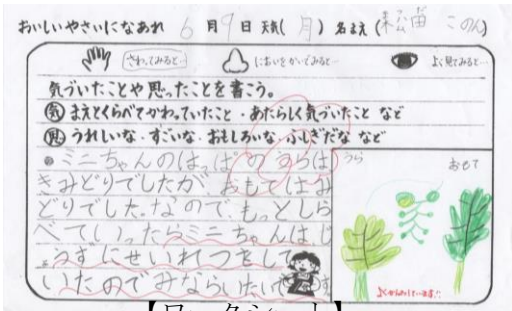
【活動や体験についての思考・表現】

- 野菜は、生命をもっていることや野菜を育てた喜びや自分の成長に気付いている。

【身近な環境や自分についての気付き】

(3) 指導計画と実践例（総時数 11 時間）

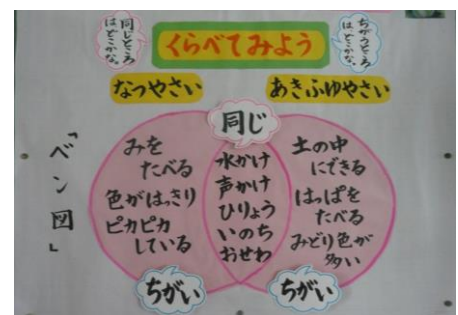
過程	主な学習活動【評価規準】	時間
であう・みつける	1 育てる野菜を決め、育てる目的をカードに記入する。  【育てたい野菜を付箋紙に書く】  【野菜図鑑】 まず、自分が育てたい野菜を考え、付箋紙に書く。次に、その野菜は夏に育つ野菜かどうか、野菜名人に聞いたり、教室に置いてある野菜図鑑で調べたりする。そして、書いた付箋紙を季節ごとに分類し、夏に育つ野菜の中から、自分の育てる野菜を決定する。 図書室等に置いてある図鑑の中から、必要な情報だけをまとめた図鑑（30 種類掲載）を作成し、自分で調べることができるように、学級の人数分準備しておく。	4
	2 野菜の苗を買い、育てる野菜の苗を植える。 【関：育てたい野菜を決め、野菜栽培に興味・関心をもって、大切に育てようとしている。】  【苗の購入】 育てたい野菜が決まったら業者に野菜の苗を注文する。教師が買ってくるのではなく、一人ずつお金を払って買うことで、自分の野菜に愛着をもって育てることができるようにする。 ナス・ピーマン・ミニトマト・トマト キュウリ・オクラの 6 種類を購入	

か か わ る	3 野菜の生長の様子を観察し、必要な世話をする。 【思：野菜の特徴や育つ場所、変化や生長について考え、世話の仕方を工夫したり、生長の様子を自分なりに表現したりしている。】  【自分の野菜の観察】  【気付きの付箋紙】  【グループごとの発見ボード】  【グループごとの交流】  【ワークシート】 観察した日付ごとに付箋紙の色を変えることで、野菜の変化や成長に気付くことができるようにする。 同じ野菜を育てているグループごとに発見ボードを作成し、気付きを交流することで、気付きの質を高めることができるようにする。 諸感覚を意識したワークシートを配ったり、諸感覚を意識したボードを作成したりすることで、見ることによる観察だけでなく、触ったり匂いを嗅いだりすることができるようにする。	4
つ た え あ う ・ つ な げ る	4 自分で育てた野菜を収穫し、栽培活動を振り返る。 【気：野菜は、生命をもっていることや野菜を育てた喜び、自分の成長に気付いている。】  【野菜の収穫】 収穫した野菜を持ち帰り、家で野菜パーティーをすることを、事前に週報などで保護者にも連絡をすることで、楽しく野菜パーティーをすることができるようにする。 他教科との関連（道徳：野菜パーティ、国語科：観察名人になろう）を図ることで、収穫まで意欲をもって活動できるようにする。	3

3 成果と課題

夏野菜の変化や成長をじっくりと観察することで、夏野菜の特徴をしっかりととらえることができた。そのことが冬野菜を学習する際にも生かされ、夏野菜と冬野菜を比較しながら、意欲をもって活動することができた。

気付きの質を高めるために、グループや全体での交流を行ったが、まだ観察したいという子どもの思いを途中できってしまうこともあった。気付きの質を高める授業の在り方について、更に研究をしていく必要がある。



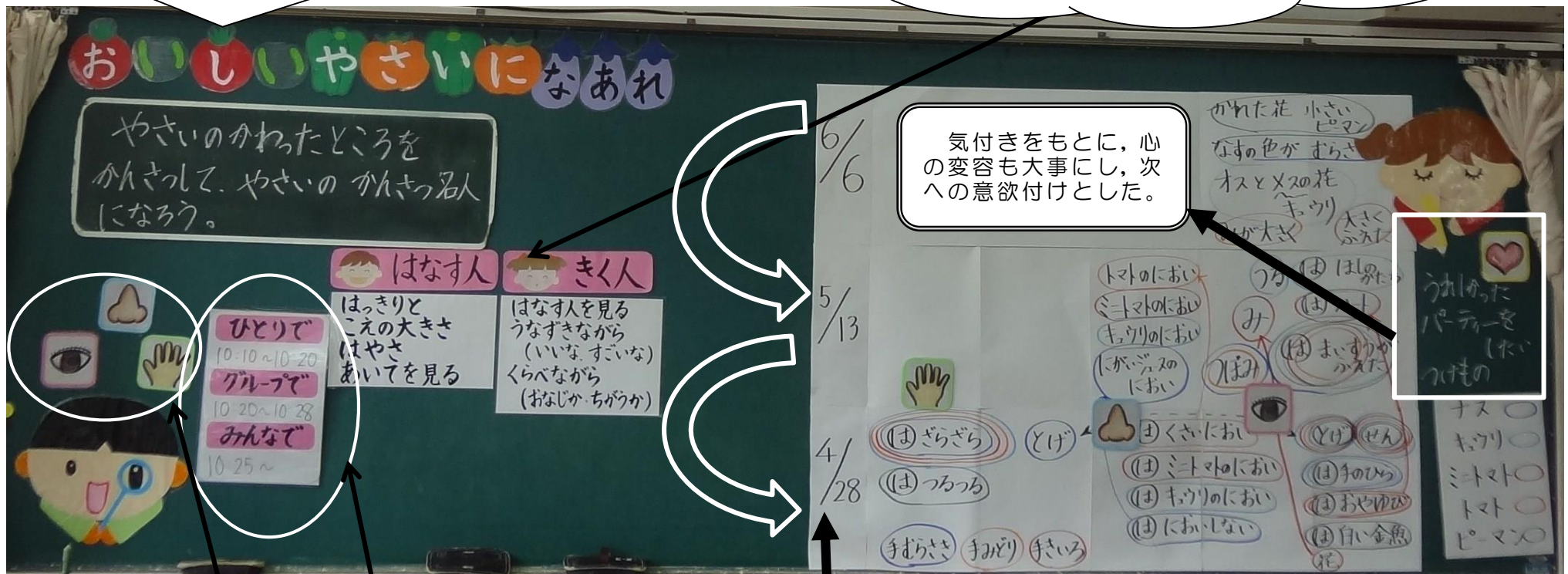
【夏野菜と冬野菜の比較】

2 学年生活科 単元名「おいしい野菜になあれ」

指導者 福元 浩子

本単元は、国語の「かんさつ名人になろう」という単元と深く関連しているので、野菜の変わったところに目を向けながら国語で学習したことも生かすことのできるめあてを設定した。

『説明する名人になろう』を生活科の観点や国語で学習したことをもとにまとめている。



子どもたちが、諸感覚を意識しながら活動できるように、諸感覚カードを掲示した。

子どもたちが、見通しをもって活動できるように、学習課程と時間を黒板に掲示した。

気づきをもとに、心の変容も大事にし、次への意欲付けとした。

- 前時に学習したものも掲示することで、成長や変化を実感したり、比較しながら考えたりすることができた。
- 野菜ごとの気づきを色ごとに表すことによって、「どの野菜の葉っぱもざらざらしているんだな。」と同じことに気付いたり、「きゅうりにはつるがあるんだな。」と野菜によって違いがあることに気付いたりすることができた。

【研究内容 1】

思考を可視化・具体化する手立て

- まず、野菜について気付いたことを一人ずつ付箋紙に書かせ、次にグループごとに発見ボードに貼りながら発表する形態をとった。自分の気付きをしっかりと付箋紙に書くことによって、グループの発表でも自信をもって発表することができた。また、毎時間の気付きを書く付箋紙の色を変え、継続して使用できる発見ボードを準備することで、変化や生長をより実感することができた。全体の板書も前時までの気付きが分かるような板書とすることで、気付きの質も高まっていった。

【研究内容 2】

協同的な「学び合い」を通して、思考を深める手立て

- まず、自分の気付きを付箋紙に書き、次にそれを同じ野菜グループで発表する形態をとった。単元の初めは、形式的な発表に留まっていたが、実際に自分の野菜を見せながら発表させることによって、活発な学び合いができるようになった。全体での「学び合い」では、活発な意見交換がなされた。異なるグループの気付きを聞くことによって、自分の野菜と友達野菜を比較し、自分の野菜への気付きを深めることができていた。

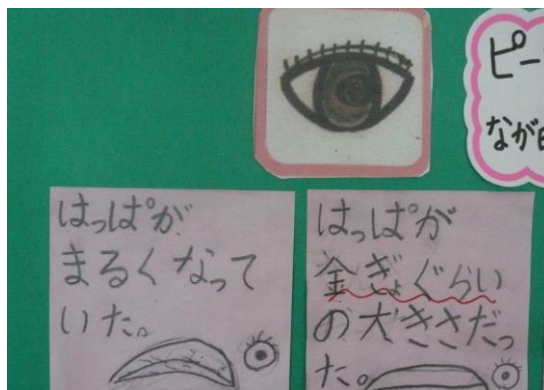
	成果（P）	課題（M）
研究内容 1	○「前よりどう変わったか」という視点で、諸感覚を使いながら繰り返し観察するように促すことで、比較しながら考えることができるようになった。 ○ 諸感覚を提示し、気付きを諸感覚ごとに分類することで、「見る」ことによる観察だけしていたことに気付き、「触る」「嗅ぐ」ことによる観察をすることができるようになった。	○「見える図」をつかうために、授業をどう構成するか、という視点にたつての授業を構成することが多かった。「目標にある見える図は何か」とい視点で考え、授業を構成していかなければならない。
研究内容 2	○ グループ毎に、付箋紙を発見ボードに貼ることで、自分と友達の気付きを比較したり、分類したりすることができるようになった。 ○ 対象とじっくり関わらせながら話し合うことで、充実した意見交換ができた。繰り返し行うことで、活発な意見交換ができるようになった。	○ 全体で深める際、教師がしっかりと気付かせたいことの視点を持っている必要がある。 ○ 時間には限りがあるため、同じ野菜同士の気付きの比較、異なる野菜同士の気付きの比較の両方をすることが難しい。何をさせたいのか、毎時間の指導計画を明確にしていく必要がある。



付箋紙の活用



〈気付いたことを付箋紙に書く〉



〈気付きを絵や文で書く〉



〈グループごとの発見ボード〉

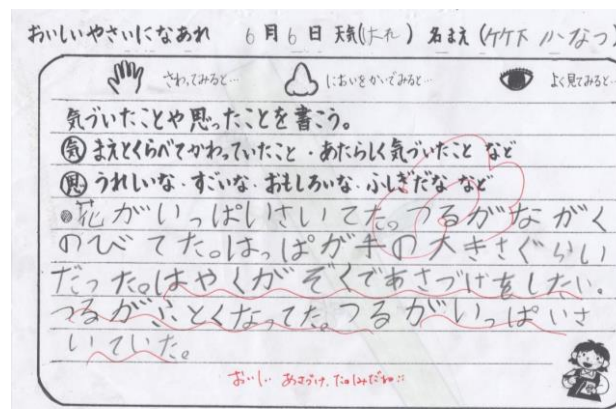
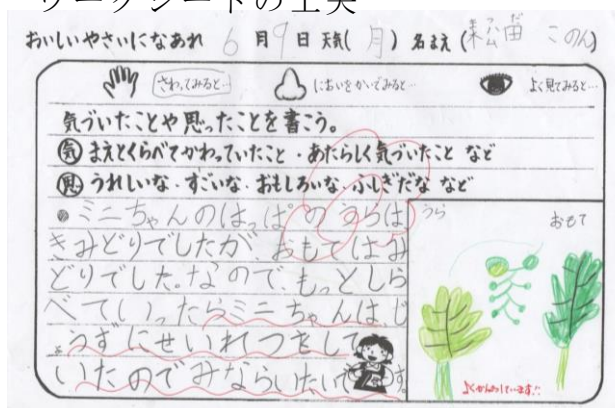
〈付箋紙の活用にあたって、子どもに事前に指導したこと〉

- のりが付いているところが裏の上にくるようにして書く。
- のりが付いているところを触らない。
- 見えるように、大きく書く。
- 文字だけでなく、絵をかいてもよい。
- 付箋紙を使って、みんなで話合いをするときは、自分の名前を書く。

気付いた内容、観察した日付などによって、付箋紙の色を変えると、気付きが比較しやすくなるよ。



ワークシートの工夫



どちらのワークシートがいいかな。好きな方を選んで書いてみよう。

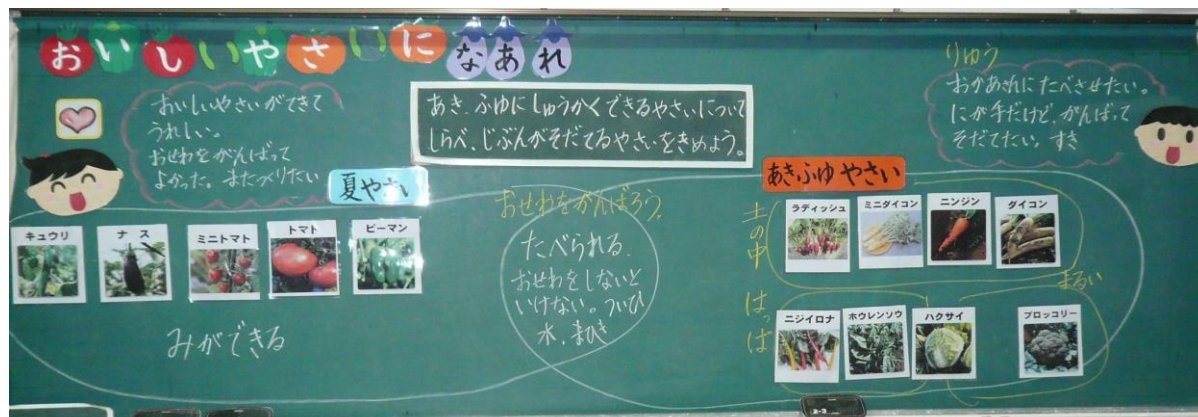


夏野菜と秋冬野菜の比較

- 夏野菜にじっくりと関わることで、「秋冬野菜も育てたい、家族に食べさせたい」という意欲が生まれた。



〈秋冬野菜の種を観察〉



〈秋冬野菜授業板書〉

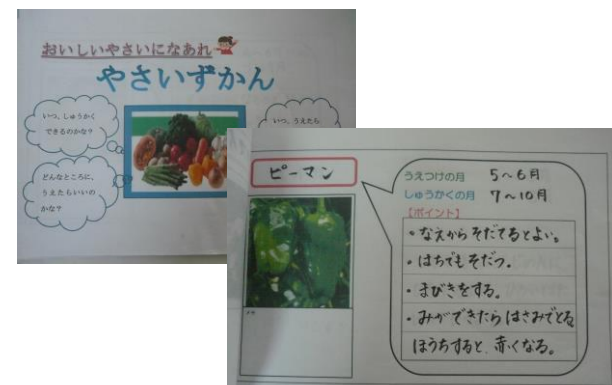
- 夏野菜と秋冬野菜について比較して考え、食べる部分の違い、色の違いはあるが、お世話をしないといけないことは同じであるから、大切に育てていこうという思いを持つことができた。意欲が継続していくように、ベン図にまとめ、教室にも掲示をした。



〈背面掲示〉



〈背面掲示〉



〈いつでも活用できる野菜図鑑〉